授業科目	国際関係入門					実務家教員担当科目	-
単位	2	履修	選択	開講年次	1	開講時期	後期
担当教員	川上　耕平						
授業概要	「国際関係」に関する知識は、現代人にとって欠かせない教養のひとつであろう。この講義ではその知識を深めるために、初学者でも興味がもてそうなトピックを題材にして基礎的教養を提供したい。内容については三つの柱を想定しており、一つ目の柱として、日本が行った対中・対米戦争とその後の日本の発展の経緯を（第 2 回～第 7 回）、二つ目の柱として、国際関係を考える際に無視できないアメリカという国の対外行動を（第 8 回～第 12 回）、三つ目の柱として、アメリカにおける女性の社会進出を（第 13 回～第 14 回）、それぞれ扱う。						
授業形態	講義			授業方法			

学生が達成すべき行動目標	
標準的レベル	・国際政治において起きた出来事を、順序立てて説明できる。 ・講義以外でも、他国の社会の動向に関心を持って新聞やニュースに触れることができる。
理想的レベル	・国際政治において起きた重要な歴史的事象を、その基底にある原因をふまえつつ論理的に説明できる。 ・普段から他国の社会の動向に関心を持って新聞やニュースに触れ、講義で得た知識を生かしてその動向を説明することができる。

評価方法・評価割合

評価方法	評価割合（数値）	備考
試験	60%	
小テスト		
レポート	30%	
発表（口頭、プレゼンテーション）		
レポート外の提出物		
その他	10%	

カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング

DP1	-	DP2	○	DP3	○	DP4	-	DP5	-	ナンバリング	T021402J

学習課題（予習・復習）	1 回の学習目安（時間）
予習：事前にレジュメを配布した場合は予め目を通しておく。 復習：その日に学んだ内容を見直す。	4

授業計画

第 1 回	テーマ：はじめに――受講にあたっての心得 今後の専攻を問わず、本学で「国際関係」について学ぶことがなぜ重要なのかを考える。そして、学んだことを生かせるかどうかは日々の学習にかかっているので、高校までとは違う大学での勉強の仕方についても説明する。

第 2 回	テーマ：日中戦争（1）――　なぜ植民地をめぐる対立が生じたのか 国際社会において、日本の戦争責任は今も問題になっているが、その原点について歴史的に考える。
第 3 回	テーマ：日中戦争（2）――　なぜ日中は戦争に突入したのか 1930 年代に、日本がアジアにおいて戦争へと進んでいったプロセスについて考える。
第 4 回	テーマ：太平洋戦争（1）――　なぜ日米は戦争に突入したのか 戦後の日本を考える際、対米戦争とそれにおける敗北が大きな影響を与えてきた。そこでこの戦争の起源とプロセスについて検討する。
第 5 回	テーマ：太平洋戦争（2）――　なぜアメリカは原爆を投下したのか 戦争責任を考える際、日本は加害者でもありながら、被害者でもあるという側面も持っている。原爆投下を題材にその点について検討する。
第 6 回	テーマ：戦後日本の形成 ――　なぜ憲法と自衛隊は問題となるのか 連合国との戦争に敗れた日本が、戦勝国である米国の影響を受けて、どのような国家体制をつくりあげていったのか、という点について学ぶ。
第 7 回	テーマ：日米安保条約　――　なぜ日本にアメリカ軍の基地があるのか かつて戦争をした日本とアメリカは、戦後一転して緊密な同盟関係を築くことになったが、その起源とプロセスについて考える。
第 8 回	テーマ：ベトナム戦争　（1）――冷戦期の局地紛争：その起源 戦後アメリカが行ってきた戦争の中で、世界に最も大きな影響を及ぼしたと考えられるベトナム戦争について、その起源を学ぶ。
第 9 回	テーマ：ベトナム戦争（2）――冷戦期の局地紛争：その展開 引き続き、ベトナム戦争の具体的展開についてを学ぶ。
第 10 回	テーマ：ベトナム戦争（3）――反戦とカウンターカルチャー 引き続きベトナム戦争をとりあげるが、それがアメリカ国内社会に及ぼした影響などについて考える。
第 11 回	テーマ：アメリカの対外行動の特徴（1）―孤立主義の時代 現在の国際関係を考えるにあたって、無視することのできない大国がアメリカであるが、この国がどのような経緯を経て形成されたのか。主に対外行動に焦点を当てて検討する。
第 12 回	テーマ：アメリカの対外行動の特徴（2）―国際主義の時代

	アメリカは「自由」や「民主主義」を重視していながら、しばしば「帝国」的な行動をとることで知られているが、ここではその理由について考える。
第 13 回	テーマ：現代における女性の社会進出（1）――アメリカを中心に：現状編 女性の社会進出の歴史について、アメリカという国に焦点を当てることで、日本における現状と比較する。
第 14 回	テーマ：現代における女性の社会進出（2）――アメリカを中心に：歴史編 引き続き、女性の社会進出の歴史について、アメリカという国に焦点を当てることで、日本における現状と比較する。
第 15 回	テーマ：まとめ 講義で話してきたことについて、もういちど重要な点を確認するが、スケジュールに変更が生じたときは、その調整にあてる場合もある。
テキスト	テキストは指定せず、毎回レジュメを配布する。
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	講義の各回で、関連する文献などを紹介する。
課題に対するフィードバックの方法	毎回書いてもらうリアクションペーパーで質問があった場合、次の週に言及する。
学生へのメッセージ・コメント	高校で「世界史」や「政治・経済」などを履修していたかどうかは問わないが、講義前の予習と講義後の復習を励行していただきたい。講義の各回でそのテーマに関連する本や映像・音楽も紹介するので、それらに積極的にあたっていくことを期待する。